

— 金花副社長に聞く —

## 鉄道車両事業の 近況と今後の展開

鉄道車両事業を取り巻く世界的環境と今後の事業展開をお聞かせください

地球環境に優しく、効率的な大量輸送手段である鉄道システムは、先進国・新興国・発展途上国を問わず、多くの国・地域で建設・延伸が進捗しています。また世界中で高速鉄道、貨物専用線などの国家プロジェクトが具体化しており、当社も台湾新幹線の成功例をベースに官民一体となり受注活動を展開しています。

一方で、欧州ビッグ3に加えて、中国南車・北車の合併による巨大な中車の誕生、日本の車両メーカーの海外生産拠点の稼働や低価格戦略など、ますます熾烈な競争環境になってきました。

このような事業環境でカワサキの鉄道車両が世界市場の中で圧倒的な存在感を発揮し、お客様に最も信頼される鉄道車両システムメーカーの地位を確立するには、技術の独自性追求と差別化が重要であると考えています。総合重工業メーカーとして、幅広くかつ最先端の技術を保有しており、それらを車両の技術開発に結集できるのが何よりの強みです。

独自性を持つ製品にどのようなものがありますか？

例えば、サスペンション機能を持つCFRPフレームを世界で初めて採用した新世代台車「efWING」を製品化しました。これは、航空宇宙カンパニー、技術開発本部など社内の保有技術を結集して開発した、当社にしかできない独創的な差別化製品です。

「efWING」の特徴は、航空機で使われている先進材料であるカーボンファイバーを、世界に先駆けて鉄道車両用台車へ適用し、大幅な「軽量化」を達成したことと、輪重抜け量が従来の半分以下となり「走行安全性」に対して優れた性能を有していることです。

また開発当初よりカワサキらしさを追求するためデザインにもこだわりました。感性工学に基づき、性能・外観をトータルにコーディネートしたデザインを採用しており、印象的なカラーリングや洗練された機能美によって今までの鉄道台車のイメージを変えるものです。2013年度には台車のデザイン関連では初めてとなるグッドデザイン賞の金賞を頂きました。

お客様にも大変好評で、2014年3月より熊本電気鉄道(株)にて国内初の営業運転を開始し、2015年3月に四国旅客鉄道(株)、同年4月に九州旅客鉄道(株)、同年10月に西日本鉄道(株)



金花 芳則 代表取締役副社長†

において、営業車の台車を「efWING」に置き換え、走行試験を行いました。これらの実績をもとに日本国内および世界市場での拡販を目指しています。

今後、注目するビジネス分野は何ですか？

今までの車両カンパニーは新造車ビジネスが中心でしたが、中計2016では収益拡大のためストック型ビジネスの強化をあげており、特にIoT (Internet of Things) 技術を活用するビジネスに注目しています。

例えば、鉄道事業者の車両保守業務では、ライフサイクルコスト低減の観点から、時間周期による保守 (Time Base Maintenance) から状態監視による保守 (Condition Base Maintenance) への転換が求められています。鉄道部品の中でも台車は点検・交換部品が多く、メンテナンスの時間もかかりますが、当社は台車関連技術を多数保有していますので、IoTを基盤に状態監視、予兆診断技術 (台車状態監視技術、軌道モニタリング技術など) の当社技術の活用により、保守の最適化のみならずお客様のライフサイクルコスト全般に貢献できる保守システムの提供が可能と考えています。

最後に

車両カンパニーでは「鉄道車両を中心として、全ての利用者に安全、安心、快適な移動を約束する製品を提供することで社会に貢献する」をカンパニーミッションに掲げています。当社のコアコンピタンスである高度な技術力と品質により、競合他社の追従を許さない独自性と差別化を図り、世界市場においてカワサキブランドの鉄道車両を広めていきます。